

河田実紗 (大阪府東大阪市)

タイトル「朝」

毎日同じ電車で揺られ、学校へ行く。  
いつもの車両は喫煙コーナーの前で止まる。  
朝から吸いたくもない知らない人の煙草の煙を吸うことになる。  
副流煙の方が害が多いことを大人は知らないのだろうか。  
全力疾走したにも関わらず、一瞬の差で電車に乗り遅れた人と私の街を置き去りにして出発する電車。  
朝から元気のない人たち、何に元気を奪われたのだろう。  
若い人は携帯電話とにらめっこ。  
こんな朝早くから誰とメールしているのだろう。  
満員電車で大きく新聞を広げる人。化粧をする人。大声で携帯電話で話す人たち。  
あなたたちは王様ですか。  
お年寄りが席を探しているのに誰も譲る素振りすら見せない。  
しわだらけの身と骨だけの手でしっかりと手すりにつかまって、必死に立っている。  
内容を覚えるほど聞く車内アナウンスの意味は何なんだろう。  
乗換駅で、長い行列を作って並ぶ人たち。  
結局は横入りで順番を抜かされる。  
狭い電車でこれでもかど入る人たち。  
体だけが触れ合っている車内。  
目的駅でまた喫煙コーナーを通り過ぎる。  
階段を見上げるとたくさんの人。  
人が多すぎて自分のペースで進めない。  
そんなに急いでどこへ行くのだろうか？  
改札を出ると、向かいの路線の人の流れに逆らって歩く。  
人に呑み込まれないように曲がるのは一苦労だ。  
音楽を聴いて気を紛らわすしかない。  
これが私の一日の始まりだ。  
いつも通りの朝の満員電車。  
ある若い女性が席に座っていた。するとその女性の目の前に、若い女性が立った。  
座っていた女性は「あっ」と声をあげ、席を譲った。  
年も変わらないのに不思議な光景だった。  
座った女性を見ると、お腹が膨らんでいた。  
今日も一日頑張ろう。